

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4506
24年12月13日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

社員が定着しない！ 仕事の割に賃金が安いからでは？

おはようございます。

12月も中旬になり、お歳暮ゆうパックの最繁忙期に突入しました。今のところ遅配などもなく順調に推移しているようです。しかしゆうパック受託者エリアでは配達困難なケースもあっており、社員の応援配置や超勤などで対応するケースも増えています。長中局には受託業者と連絡を密にし、早めに対策をとるように要請します。

また人手不足の中、一人でも休めば業務運行に支障をきたします。くれぐれも体調管理には注意しましょう。

郵政の職場では10代から60代までの社員が同じ配達区・業務を担当しています。当然、体力がある若い人の方が配達も早いと考えがちですが、そうとも限りません。実際に一人前になるにはそれなりに年数が必要になります。だからこそ最初が肝心であり、初期にどのようなように面倒を見たかが重要となります。



皆さん、新人さんには優しくしていただけますか。

3階集配営業部入り口ドア横に2021年、2022年の放棄隠匿事案を掲示しています。2023年以降は掲示されていませんが、放棄隠匿事案がなかったわけではありません。

2024年も、大阪市の西成郵便局に勤務する10代の男性社員が約3000通の郵便物を廃棄する事案が起きています。日本郵便の発表によると、今年4月に入社したばかりの10代の男性社員は

6月中旬から約1カ月にわたり、普通郵便とゆうメール計2827通の配達を行わず、7カ所に放棄していたということでした。

放棄隠匿の背景には、様々な理由がありますが、発生させる理由の一つに時間内に配達できないことが挙げられます。社員間では少なからず配達するスピードに差があり、この差がなくなることは決してありません。当該社員は「郵便物を配達しきれなかった」と話していたそうです。



長中局で新規に採用した期間雇用社員は大村のトレーニングセンターでの研修をうけてからでしか実際の現場（配達）には配属されないようになってきています。トレーニングセンターでは「信書の秘密」や「あまねく公平なサービス」など郵便に関する知識はもちろん、放棄隠匿についても具体的に説明がなされているはず。

放棄隠匿を行った当該社員も上記のような研修を受けたはずですが、それが活かされなかったのは残念です。

今の職場は人手不足もあり、余裕のない職場になっていきます。自分の事で精いっぱいでは他の社員のことまでは手が回らない状況でもあります。しかし、配達経験の浅い当該社員に対して、通常の社員よりも配達エリアをしぼることや、他の社員が配達応援をすることなど、「思いやりのある」業務運行が行われていれば放棄隠匿は未然に防げたかもしれません。



放棄隠匿は、個人の問題ではなく、職場、会社全体の問題でもあります。休憩時間がとれない、勤務時間が守れない、配達が終わるまで局に戻れないなどといった労働環境の改善が行わなければ、職場は悪くなるばかりです。

新規雇用の社員が定着しないのは、仕事の割に賃金が安いのが理由です。人手不足解消、放棄隠匿を発生させないためにも正社員と非正規社員の格差是正、社員全体の賃金の底上げが必要ではないでしょうか。

職場の声



12月に入りゆうパケットが増加しています。集配部で配達区ごとに分けるのにも時間がかかるようになりました。以前内務担当者が町名ごとに分けることが試行されましたが、その後何の音沙汰もありません。今の時期は17時過ぎには暗くなり始めます。早く帰局するためには内務作業を短縮して早く出発する必要があります。

他局ではゆうパケットは町名別に分けられてから交付されるとの話も耳にします。長中局にもゆうパケットの町名区分をお願いしたいものです。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の権利を守る会

郵政労働者 全国労働組合連合会